

第20回ソウル大学校-北海道大学ジョイントシンポジウムを開催

11月16日（木）・17日（金）に、韓国ソウル大学校と本学のジョイントシンポジウムを開催しました。両大学の合同シンポジウムは、平成10年より毎年交互にホスト校となる形で開催しています。

第20回となった本シンポジウムは、例年開催してきた全体会こそないものの、20周年を記念して特別フォーラムが開催され、また16日（木）開催の歓迎レセプションでは、ソウル大学校の Nak-in SUNG学長から、20年に至った旧交を深め、研究交流を発展させることで世界を昨日よりも良くすることに繋がるという挨拶がありました。本学の名和豊春総長からは総長就任の年に20周年記念の開催となることについての感慨と、今後の発展への期待が寄せられました。複数分科会からの参加者を含め、両大学の関係者がソウル大学

校音楽大学国楽科の学生による演奏を楽しみました。

今年度は6部局から8分科会がソウル大学校冠岳キャンパスを主会場として催され、両大学及び他校から約100名が参加しました。

（国際部国際連携課）



歓迎レセプション風景



名和総長の挨拶

特別フォーラム

Special Forum: University's Role in Mega Sports Events

メガスポーツイベントにおける大学の役割／国際連携機構長 笠原正典

11月17日（金）に、ソウル大学校平昌キャンパスのグリーンバイオ科学技術研究院で、両大学を代表する講演者らによるジョイントシンポジウム事業20周年を記念する特別フォーラムが開催されました。

平成29年2月には札幌で冬季アジア大会が開催されましたが、本年2月には奇しくも韓国側で平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技会が開催されます。この幸運な偶然を鑑み、「メガスポーツイベントにおける大学の役割」というテーマに基づき、ソウル大学校Geun LEE国際担当副学長の発案により特別フォーラムを開催する運びとなりました。会場には、ソウル大学校平昌キャンパスにあるグリーンバイオ科学技術研究院が使用され、特別フォーラム前には平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技会の会場

を視察し、同イベント組織委員会の案内に沿って、建設中の施設を歩き回りました。

講演者には、本学教育学研究院から山崎貴史助教、保健科学研究院から遠山晴一教授、寒川美奈准教授、観光学高等研究センターから遠藤 正客員准教授が参加し、それぞれ、大学における障害者スポーツ、「前十字靭帯（ACL）スタディグループ」の会員連携によるナショナルチームのメディカルサポー

ト構築の可能性、メガスポーツイベントでの選手ケア、札幌オリンピック誘致に係るスキー観光の活用ケースを紹介しました。ソウル大学校側は師範大学のJoonHo KANG教授・スポーツ産業センター長がオリンピックにおけるスポーツ関連、非スポーツ関連の遺産について、同大学YuKyoun KIM准教授が漫画に見るスポーツの意義と経済的効果に囚われず、楽しさを共有する機会として捉えることについて、ま



平昌五輪会場査察



参加風景

た、グリーンバイオ科学技術研究院のTaeYoon KIM助教がグリーンでエコな大会運営とそれを生かしたバイオ技術普及について講演を行いました。

異分野融合の特別フォーラムでは、スポーツイベントという観点でスポーツマネジメントのみならず、観光、教育、スポーツ医学、農業という幅広い分野で事例を紹介し合う機会となり、20年続くジョイントシンポジウムを通じた連携強化の可能性が広がっていることが示されました。

い分野で事例を紹介し合う機会となり、20年続くジョイントシンポジウムを通じた連携強化の可能性が広がっていることが示されました。

【講演タイトル】

1. 北海道大学 教育学研究院 山崎貴史助教
Focusing on Daily Sport Practice for People with Disabilities in Japan
(日本における障害者スポーツの日常的実践に着目して)
2. 北海道大学 保健科学研究院 遠山晴一教授
Medical Support through Academic Network 'ACL Study Group'
(アカデミックネットワーク「前十字靭帯 (ACL) スタディグループ」によるメディカルサポート)
3. 北海道大学 保健科学研究院 寒川美奈准教授
Physical Therapy Services for Mega Sports Events
(メガスポーツイベントにおける理学療法サービス)
4. 北海道大学 観光学高等研究センター 遠藤 正客員准教授
Towards Further Winter Sports Promotion: A Case Study of Ski and Tourism in Hokkaido and Sapporo City
(冬季スポーツの更なる振興を目指して：北海道と札幌市におけるスキーと観光の事例から)
5. ソウル大学校 師範大学 JoonHo KANG教授
Legacy Development for 2018 PyeongChang Olympic Winter Games
(2018年平昌オリンピック冬季競技大会の遺産開発)
6. ソウル大学校 バイオ科学技術研究院 Taeyoon KIM助教
PyeongChang 2018 and Agriculture
(平昌2018と農業)
7. ソウル大学校 師範大学 Yookyoun KIM准教授
PyeongChang Olympic for Youth & Future
(若者と未来のための平昌オリンピック)

分科会2

2017 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology

2017複合領域科学及び技術に関する国際ワークショップ／情報科学研究科 教授 平田 拓

ソウル大学校Graduate School of Convergence Science and Technology (GSCST) と情報科学研究科がカウンターパートとなり、ジョイントシンポジウムの分科会を11月24日(金)にソウル大学校GSCSTで開催しました。今回は、情報科学研究科から教員4名がソウル大学校を訪問しました。分科会に先立ち、GSCSTのSang Eun KIM研究科長を表敬訪問し、村山明宏情報科学副研究科長より今回のジョイントシンポジウムに関してお礼を述べました。KIM研究科長からは、共同研究や交流の端緒となることを期待してい

る旨が話されました。

分科会では、本学から4名、ソウル大学校から5名の教員が30分の講演を行いました。3つのセッションに分け、それぞれ近い分野のメンバーが講演を行いました(セッション1はバイオメディカル計測、セッション2はICT、セッション3はナノテクノロジー)。分科会の参加者は、ソウル大学校の教員10名、大学院生約30名でした。ソウル大学校GSCSTは、ナノテクノロジー、ICT、バイオテクノロジーの分野に力を入れています。分科会の講演の後、新たに研究の交流を進

める具体的な提案があり、学生の派遣や共同研究について意見交換しました。今回は本学で再会することを誓い分科会の行事を終了しました。



ソウル大学校GSCST KIM研究科長訪問時の集合写真

分科会3

The 12th Japan-Korea International Symposium in Ophthalmology

第12回日韓眼科シンポジウム／医学研究院 診療准教授 南場研一

11月18日（土）・19（日）に第12回日韓眼科シンポジウムがソウル市内の Courtyard Marriott Seoul Times Squareで行われ、本学からは南場研一診療准教授と鈴木佳代医師が参加しました。18日（土）には懇親会が行われ、それぞれの医療関係の変化などについて意見交換ができました。19日（日）は午前中からシンポジウムが開催され、ソウル大学Hyeong Gon YU教授による開会の挨拶の後、本学から

2演題、ソウル大学から4演題の講演があり、講演ごとに活発な意見交換が行われました。また、難治例について2症例が提示され、その診断、治療方針について討論されました。それぞれの若い医師が闊達に意見交換することができ、有意義なシンポジウムとなりました。

来年は札幌にて第13回日韓眼科シンポジウムを行う予定ですが、台湾長庚大学の先生もお招きする予定です。



参加者による記念撮影

分科会4

2017 SNU-HU-NTNU-KU Joint Symposium for Science Education – New perspectives on educational research and practice for the knowledge society

2017 SNU-HU-NTNU-KU理科教育ジョイントシンポジウム：知識型社会のための教育研究と実践に関する新しい視点／教育学研究院 教授 大野栄三

12月18日（月）～20日（水）の日程で本学を会場に実施し、今年も、台湾師範大学（NTNU）、カセサート大学（KU）を加えた4大学のジョイントシンポジウムになりました。

18日（月）は、ソウル大学の大学院生8名、カセサート大学の大学院生4名と教員1名が、市立札幌開成中等教育学校の理科授業を参観しました。19日（火）・20日（水）の分科会には、4大学から教員8名、大学院生17名が参加しました。理科教育における「対話的学びの分析」「探究活動と教師の専門性」「科学の最前線と新しいカリキュラム」「マイノリティー」「イ

ンフォーマル教育」「ICT機器を活用した研究と実践」「アジア諸国のカリキュラムの比較研究」といった多彩なテーマで、23件の口頭発表があり、活発な議論が展開されました。19日（火）

の午後は、総合博物館を博物館の方の案内で見学しました。平成28年にリニューアルされた館内に、皆感嘆していました。平成30年は台湾で11月に開催する予定です。



分科会風景



集合写真

分科会5

Infection and Immunity – from the Basic to Applied

感染と免疫—基礎から応用まで／獣医学研究院長 堀内基広

本分科会は、11月16日（木）にソウル大学校獣医科大学のBiotech Research Bldg.において開催されました。ソウル大学校のJe Kyung SEONG教授が司会を務め、ソウル大学校獣医学部長のHee Jong WOO教授からの開会の挨拶で始まりました。シンポジウムでは、本学から4名、ソウル大学校から5名の計9名の教員が講演を行い、最先端の獣医学研究及びその応用・展開について議論するとともに、両大学の獣医学教育国際認証取得への取り組みに関する進捗状況について情報交換を行いました。閉会にあたっては、本学獣医学研究院長の堀内基広教授から挨拶がありました。また、本シンポジウ

ム開催翌日に開院記念式典が予定されていた新附属動物病院の案内が行われ、ソウル大学校の最新の獣医療施設を見学しました。シンポジウム後の懇親会では、今後の開催方法等について意見を交換しました。



堀内研究院長による講演の様子

来年度以降は、学部生や大学院生による発表等も視野に入れ、引き続き最先端の獣医学研究をトピックに取り組んでいく予定です。本分科会の開催にあたりご尽力をいただいた両大学の皆様に、心よりお礼申し上げます。



全講演終了後の参加者の集合写真

分科会6

Sociological Reflections on Current Issues in East Asia

東アジアの社会的課題と社会学的思索／文学研究科 教授 櫻井義秀

12月9日（土）、ソウル大学校の社会科学棟にて「東アジアの社会的課題と社会学的思索」と題したワークショップが開催され、ソウル大学校社会科学のスタッフと、本学から文学研究科の櫻井義秀教授、村松正隆准教授、カローラ・ホメリヒ准教授（代読）、経済学研究院から橋本 努教授が参加しました。ソウル大学校側は、「韓国の若者の夢資本」「日韓の原理的発電と社会運動の比較」「朴正熙政権時のサバイバル権威主義体制」、本

学側は「医療化された死生とウェルビーイング」「日本の中流意識の緩やかな終焉」「経済倫理と社会問題における理念型」「中江兆民の道徳的自由主義と諧謔精神」と題した発表を行い、有益な討議がなされました。

今回は第5回目のワークショップになりますが、社会的課題・発想の差違についても相互理解がかなり進められ、将来的な出版や共同研究プロジェクト、大学院生相互の交流なども視野に収めた一層の交流の進展が約束され

ました。研究・教育の促進を促すための経費支援としては極めて効率的であることは付言できるでしょう。



集合写真

分科会8

The 6th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering: Recent Progress on Microstructure-Process-Property Relationship in Minerals

第6回材料科学に関する合同シンポジウム：材料における微細構造加工特性関係の進展／工学研究院 教授 橋本直幸

本シンポジウムは、ソウル大学の Youngwoon KIM教授のご協力のもと、本学工学研究院材料科学専攻とソウル大学工科材料工学科との間で開始され、3回目よりHeung Nam HAN教授を窓口とし、本年度は11月25日（土）にソウル大学工科材料工学科棟内会議室において開催されました。ソウル大学・本学双方から計14名の教授・准教授・助教・博士にソウル大学の大学院生10数名を加えた計30名弱の参加者数となり、先生方

から材料科学に関する最新の研究が紹介されました。今回のテーマは昨年引き続き、“Microstructure-Property Relationship in Materials（材料における微細組織と特性の関係）”であり、各専門家からの発表範囲は幅広く、個々の専門を超えて活発かつ有意義な討論が行われました。特に、エネルギー関連材料や材料計算科学分野における研究に関心が高く、共同研究を含めた交流につながる可能性が高まっています。また、大学院博士課程学生

による口頭発表も行われ、若手研究者の育成に多少なりとも貢献ができたと言えます。

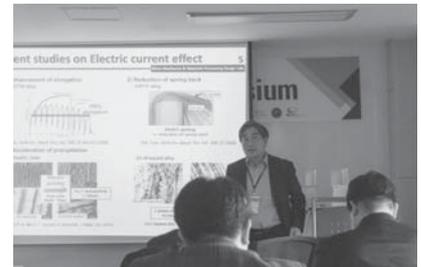
今年度は、本学学生2名がインターンシッププログラムを通してソウル大学を1か月間訪問する予定であり、今後も、学生間の交流を積極的に進める方向で一致しました。次年度は、本学でシンポジウムを開催する予定です。



参加者集合写真



橋本教授による講演



HAN教授による講演

分科会9

5th SNUH-HUH-SHH Joint Symposium

第5回北海道大学病院-ソウル大学病院ジョイントシンポジウム／北海道大学病院長 寶金清博

11月23日（木・祝）に、ソウル大学校病院がん病院講堂において「第5回北海道大学病院-ソウル大学病院ジョイントシンポジウム」を開催しました。今回も昨年に引き続き、本院と部局間交流協定を締結している台北医学大学双和病院が特別参加しました。

分科会はソウル大学校病院 Chang-Suk SUH病院長、本院 寶金清博病院長による挨拶で始まり、「Emergency Medicine（最先端の救急医療）」のテーマのもと、「Advances of EMS in Asia（アジアにおける救急医療の進

歩）」「Recent updates of cardiac arrest and stroke（心停止と脳卒中に関する最近の動向）」「Other aspects of emergency medicine ; Database, Transport and Mass Casualty（救急医療に関するその他のトピックス）」と題した3つのセッションから構成されました。3大学から多数の教員、医療関係者等の参加があり、各セッションの終わりには各大学での特徴的な取り組みを踏まえた活発な質疑応答、意見交換が行われ、盛会のうちに閉会しました。

今後も両大学病院間の連携強化のみ

ならず、3大学間の緊密なネットワーク構築によるさらなる発展が期待されます。



分科会参加者による集合写真

※分科会1「協力講義：環境化学物質と人々の健康」は、平成29年度ラーニングサテライト事業としても開催のため、北大時報12月号に掲載済。